

2021年12月5日(日)

GIチャンピオンシップ 第1回 2日目

記録ログ(文章)

長い夜だった。

深夜0時、昼間の熱気とはうって変わって、気温2度の凍えるような風がテントを吹き付ける。

恐らく、海賊たちもこの寒さにやられて朽ち果てていったに違いない。
至るところにあるドクロはきっと海賊たちの屍なのだろう。

昨夜は深夜まで2日めにとる行動の分担を議論し、

(如月一)

エモーショナルな写真を撮り、流れ星を見る必要があった。

(いんこ)

寒さに震え、ほとんど眠れないままひたすらに時が経った。

(ダッシュ熊)

zzz...

いびきの重低音がサラウンドで聞こえてくる。どうやらこのテントがとても快適なようだ。
プロハンターたるもの、どんな場所でも寝られないとダメなようだ。

そして夜が明けた。

岩谷の祠の向こう側から見える朝焼けの暖かな光は、まるで我々の勝利を祝福するかのように見えた。

昨日獲得した大量の食事にかぶりつき、そして迎えた朝8:00。

本日のルール説明の前に始まった、なんだか懐かしいラジオ体操。こういった昔の頃に戻る体験も宝の一つなのだろうか。

昨夜の結果に一喜一憂しつつ、各チームの進捗に目を配る。やはり周りのチームはスゴかった。

ゲーム開始。ここからは昨日の分担に沿った各自の動きを見ていこう。

(如月一)

真っ先に山頂に向かうも、昨日に登った階数は 140 階。これは東京タワー3 往復強にも上る。足は既に疲労困憊、それでも諦めきれぬ宝への執着。続々と先をいく同業者。これほど競争相手が恐ろしく見えたことはない。

山頂にて、前方には山道をサクサク進んで若さを見せつけたじゃくねんそうの 2 チーム。勇気の門の宝→武器(レーザーポインタ)の入手→武器の使用→ロックの鍵入手、と 2 チームとも流れるように我々のやりたいことを実施していく。どのチームも目覚ましい活躍だ。

同工程を終え、得られた全ての情報をメンバーに共有し後は考えるだけだが、ここで盛大に詰まる。一時は「真の宝は偽の下にある」「勇気の門にはスコップがある」との情報から勇気の門で穴を掘るのか！？と迷走してしまった。

とはいえ、山頂に到達できるのは現状私だけであり、山頂に座しメンバーの活躍を期待するしかない。

(いんこ)

副長の宝を早々に見つけた後、迷いの森を抜けて眼前に広がるエメラルドブルーの瀬戸内海。

"今日には東京に帰って、明日からまた仕事なんだよな…。金曜日はこのために早上がりしたので大量のタスクが待っているんだよな"

…そんなことがまるでどうでも良くなるかのような絶景。道なき道を自らの力のみでよじ登ってはじめて得ることができたのだという感動も相まって、一筋の涙が頬を伝っていった。

海賊王の真の宝は、この絶景だったのではないか。

馬の背を歩きながら、そんなことをふと考えていた。

もう昨日から何度通ったかわからない山羊の小道。通り過ぎた先にある雛鳥の巣。

「…雛鳥の巣？」

その時、これまでぼんやりと存在していた点と点が繋がる衝撃が走った！

雛鳥の巣の近くには、たしか昨日必死で降りて探したけれど見つけれなかった孔雀の塔があるはず。

「熊さん！確か人食い鮫の浜にいますよね？とにかくその辺りにある孔雀の塔を探してください！」

…これで勝てるのか。
すべては熊さんに託して祈ることにした。

(ダッシュ熊)
「なるほど。あー、孔雀の塔ならありますね。」

「え？雛鳥と孔雀の間を探せばいいの？」

「あー、なんかドクロの宝がありました！」

「中から剣が出てきました。報告しますね！！」

(いんこ)
「ちょっと待ってください！今からそちらにすぐに向かいますので！」

「いいですか、その剣は恐らく偽物です。」

「鉄の掟を思い出してください。それは海賊王が仕掛けた巧妙なワナなんですよ。」

「そろそろ熊さんのところに着きますね！」

(いんこ・ダッシュ熊)
これ、宝箱が二重底になってますね。開けてみましょう。

「せーの！」

(如月一)

メンバーから「宝を見つけた！」の報告を聞いて、これほど嬉しく思ったことはない。

辛く険しい下山も心なしか早足で何度か転んでしまった。

尾根で手を振るメンバーを見た瞬間、心からホッとし、結束は更に強まったと実感した。

2人に連れられ、最後の宝を改めて3人で見つける。この3人で参加できたこと、海賊王の秘宝を無事に見つけられたこと、さまざまな美しい景色と味わった体験、その全てが素晴らしい経験であった。

最後に、今回の冒険で揺るぎない絆が生まれた3人。この宝は3人で見つけたものだ。

次は一体、どのような冒険と興奮が待っているのだろうか…

Fin…?